

# 「本の時間」をつくろう

栃木県教育委員会

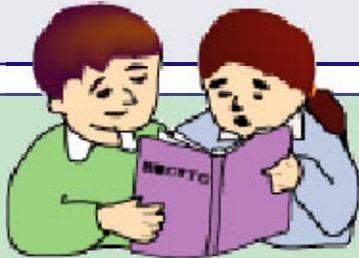
「本」の楽しさ、読書のよろこびを子どもたちに伝えましょう！

活字の持つ世界・本が作る言葉の世界は、無限のものです。子どもたちが、自分の中に言葉による世界を築きあげていくことを通して、本は身近で魅力的な友だちとなります。本を読む楽しさ・読書のよろこびを子どもたちに伝えましょう。家庭や学校で本のある環境を整え、本の時間をつくるのが本好きの子どもを育てる第一歩となるでしょう。

## 「心」をはぐくみます

夢や希望を与える作品、感動や思いやりの心を育てる作品、生きる意欲や生き方の道しるべを示してくれる作品など、深く心に残る読書の経験は、心の栄養となり、豊かな情緒や繊細な感性をはぐくんでいきます。読書によって、想像する力や、集中力、忍耐力をつけることにもなるでしょう。

また、本を媒体としたコミュニケーション活動により、子どもたちは新しい「本」と出会い、「人」と出会うことができます。



## 「学ぶ力」をはぐくみます

子どもは、本を読むことによって、文章の中に息づいている言葉の意味や使い方を自分のものとして身に付けていきます。そのようにして獲得した言葉は、知恵や思索の源となり、さらに主体的・能動的に考える原動力となっていきます。

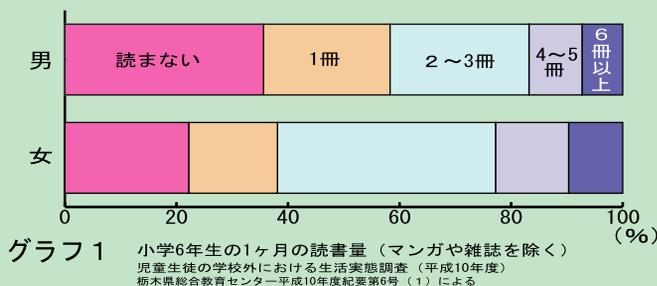
読書は、子どもたちを知的な世界へといざなう力を本質的に持っています。新しい世界を求めようとする欲求は、「主体的に学習する力」そのものといえるでしょう。

## 今、子どもたちの読書事情は？

### ◆本を読まない子が多くなっています

総合教育センターの「児童生徒の学校外における生活実態調査（平成10年度）」によると、小学6年生では本を読まない児童が全体で30%近くに達しており、特に男子で多くなっています。（グラフ1）

第47回読書調査（毎日新聞社・学校図書館連絡協議会による）では、この5年間の傾向として、小学生の不読者が増えてきているという結果になっています。



### ◆読書に対する意識に違いがみられます

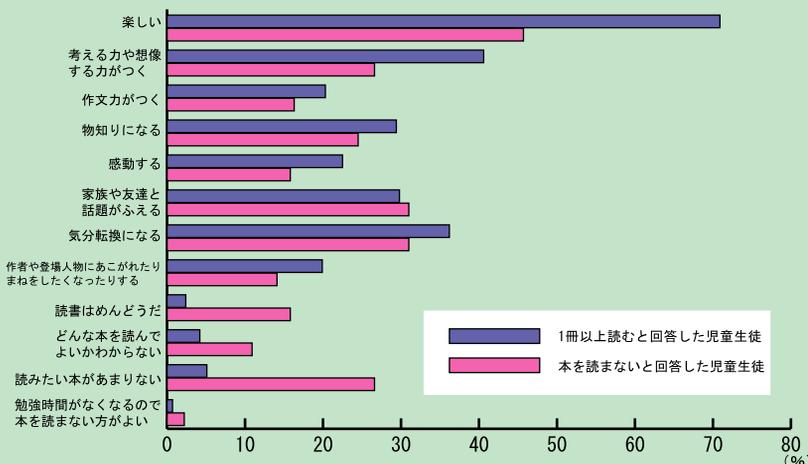
上記の総合教育センターの調査では、1ヶ月に本をほとんど読まない児童と本を読む児童では本に対する考え方として次のような傾向が見られます。（グラフ2）

#### ☆本を読む子は

- ・本を読むことが楽しい
- ・本を読むと考える力や想像力がつく
- ・本を読むことによって感動する

#### ☆本を読まない子は

- ・読みたい本があまりない
- ・読書はめんどろだ
- ・どんな本を読んでいいかわからない



## 本の時間を積極的に作りましょう

本を読まない子には、大人からのほたらきかけによる読書のきっかけづくりが大切です。学校や家庭で、本に接し、本に親しむ時間を積極的につくるのが求められています。

# 学校で「本の時間」をつくりましょう

現在、多くの学校では朝の始業前の10分間などを使って様々な「本と出会う」時間が設定されています。

## 本好きへの第一歩は読み聞かせから



一人で読むことになれないうちは、まず「本」の楽しさを味わわせることが大切です。その第一歩として「読み聞かせ」が考えられます。

小さいころから、十分な読み聞かせをしてもらった子どもは本が好きになります。また、子どもたちは読み聞かせをしてもらうことが好きになり、話を集中して聞くことができるようになります。

さらに、子どもは毎日語りかけられることによって、ことばを一つ一つ自分のものにしていきます。読み聞かせは、言葉を豊かにするために大切な活動です。

## 「本っておもしろいよ!」ブックトークから始まる読書の楽しみ

ブックトークとは、テーマに沿って何冊かの本を紹介する、読書へのいざないの方法の一つです。

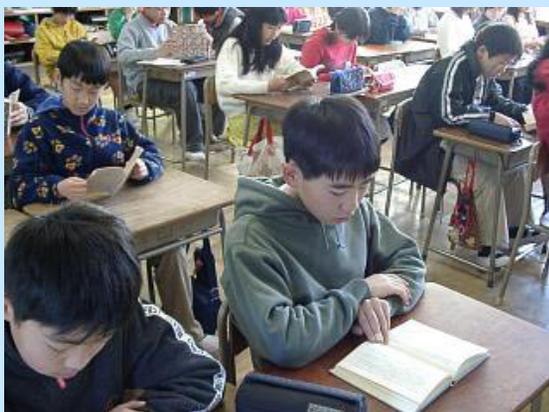
単なる本の紹介ではなく、テーマにちなんだ楽しいおはなしをしたり、なぞなぞやクイズをしたり、新聞記事や写真を見せたりしながら話題を広がりのあるものにしていきます。また、手あそびやゲームなど、体を動かす遊びを織り込むことで、子どもたちは本をより身近なものとして感じることができるでしょう。

ブックトークの面白さは、子どもたちが知らなかった本に出会ったり、「あっ、それ知ってる!」とちょっぴり得意になったり、「続きが知りたい。」「読んでみたいな。」と思ったりするところにあります。

話し手の工夫次第で、「本っておもしろいな。読んでみようかな。」と子どもたちに実感させることができます。そして、次第に本に主体的にかかわろうとする態度が芽生えて、読書の楽しさがわかるようになっていきます。



## 朝の読書で始まる 学校の日



現在、全国の8000校を超える学校で朝の10分間読書が実践されています。

取組の姿勢として、「みんなでやる」「毎日やる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」という4つの原則が重要であるといわれています。そのため、先生も一緒に読書をすることや、児童生徒には読後の感想文などを求めないことなどもこの活動の特色です。

主体的な読書を促すために、この活動では、自分の力で読めるものを読み、自分で本を探す努力をすることが大切にされています。本を読んでいることが楽しいと思うことが、本を好きになることにつながるのです。

実践している学校では、児童生徒から、「家でも本を読むようになった。」「朝の騒がしかった教室が静かになった。」「1日が本で始まるので気分がいい。」などの意見が出され、生活面でも改善されてきた事例が報告されています。「朝の読書」をすることで、本を好きになるだけでなく、「心が落ち着き、授業に集中できる」「本を媒体とした情報交換が活発になり、児童生徒間の人間関係が円滑になる」といった、学校生活全般にわたる改善にもその効果が期待されています。

# 学校の読書環境を見直しましょう

子どもたちに豊かな読書環境を提供するために、子どもたちが多くの時間を過ごす学校の役割は重要です。本を読む、本で調べる、本について話したり書いたりするなど、本に親しませ、本を通して学ばせる時間をたくさんつくりましょう。

今まで行ってきた取組もその意義や目的を再確認し、学校全体で取り組んでいきましょう。

## 学級での取組は読書の原点

児童の最も身近にいる学級担任は、子どもたちの心をつかんだ指導ができるという意味で、読書の案内人になるといえます。

学級では、読み聞かせ、ブックトーク、学級文庫の設置、友だちに本を紹介させることなど読書に関係した活動を取り入れることができます。これらの活動は、他の読書に関する活動の原点となるでしょう。

## 「総合的な学習の時間」の調べ学習に

「総合的な学習の時間」では課題の設定から解決、まとめに至るまでのあらゆる過程で、本を活用することが有効です。

調べやすい環境づくりに努め、本で調べる活動などを取り入れましょう。

本を中心とする活字メディアによって、学習に必要な情報を活用する知識・技術をはぐくむことが大切です。

## 授業の中で本に親しむ

日常の授業の中で、子どもが本にふれる環境、本を読む機会をつくりましょう。

また、先生から授業の内容に関連した良い本を紹介することも大切です。

学習の導入として、また、次の段階の学習に向けての発展として、子どもの疑問に答える本や興味・関心を高めるさまざまな分野の本を、授業の中で活用していきましょう。

## 学校図書館を中心として

良い本、読んで欲しい本の紹介法を工夫していきましょう。

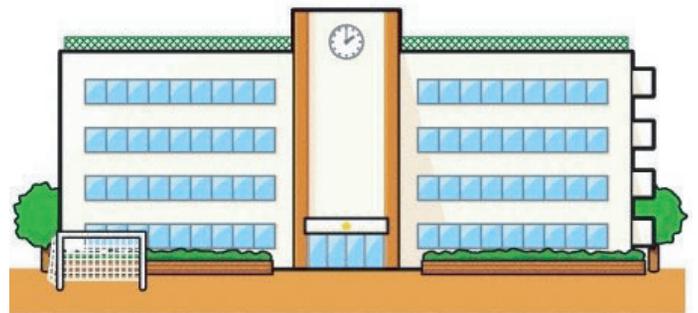
また、読書会、読み聞かせ会、紙芝居の会などのイベントを開くことも効果があるでしょう。

そのときには、図書委員会の活動を生かしたり、ボランティアや保護者の力を借りたりすると盛り上がりのある活動が期待できます。

## 効果的な学校行事を

読書月間（週間）、読書感想文コンクール、朗読発表会、読書新聞作りなどの行事は、日頃の読書活動に変化を持たせ、より深まりのある読書力をつけるきっかけとなるものです。

効果を高めるためには、年間計画の中に適切に配置し、職員の共通理解のもとに実施することが重要です。



## 機能的な学校図書館を目指して

### 読書センターとして

子どもの多様な興味・関心にこたえる本、子どもたちに読ませたい本を収集し、分かりやすく配置しましょう。また、館内を魅力的に整え、多くの子どもたちが集まり、自発的に読書ができる場としての環境づくりにつとめましょう。読み聞かせや、ブックトークなどを行い、子どもが本と出会う機会を設けることも大切です。

### 学習情報センターとして

図書資料は、問題解決的な学習、探究的な学習など子どもの主体的な学習に対応できるように蔵書構成に配慮するとともに、コンピュータ等を整備し、図書の検索等ができる環境を整えていきましょう。また、学校図書館の機能を十分に生かすためにも、公立図書館などとネットワーク化を図ることで、広く図書資料の検索や貸し借りができる仕組みをつくっていくことが求められています。さらには、図書の情報ばかりでなく、調べ学習などのときに必要な情報が得られたり、マルチメディアを活用した学習ができたりするような環境も整えていきましょう。

学校図書館法の一部改正により、平成15年度から12学級以上の学校には学校図書館司書教諭が配置されます。学校図書館司書教諭は、学校図書館の主な職務を担当し、学校図書館の活用や読書指導について、校内の協力体制の中心となることが求められています。

# 家庭でも「本の時間」をつくりましょう

4月から学校は毎週土曜・日曜が休みになり、子どもの家庭で過ごす時間が、今まで以上に増えてきます。家庭での過ごし方を見直してみましょう。

活字離れ、本離れが問題となっている今、家庭での読書の推進ということが改めて求められています。本を読むことによって、子どもは日常では体験できない世界に触れ、新たな感動を得ることができるでしょう。また、習慣化された継続的な読書により、考える力や豊かな心、知的好奇心がはぐくまれていくでしょう。

## 「読み聞かせ」からのスタート



本を読んであげるときは、本をとおした自然なふれあいを大切にしましょう。

同じ本でも繰り返し読むことにより、ことばを一つ一つ理解し、次第にストーリーを想像する力が育っていきます。また、驚いたり、感動したり、新しい事を知りたがったりする心が芽生えてくるでしょう。

子どもと一緒に本を読み、時間と心を共有することは、読み手にも充実した気持ちをもたらしてくれます。

- ・毎日、時間を取って、本に親しむことが習慣となるようにしましょう。
- ・同じ本を繰り返し読むことも効果的です。
- ・子どもの年齢に合った良い本を選びましょう。
- ・子どもの表情や感情の動きを大切に受け止めましょう。

## 子どもと一緒に本の時間を

家庭では、小さいときから本に親しみがもてるような環境づくりを心がけたり、本を読んで聞かせながら子どもとのコミュニケーションを図ったりするなど、読書の機会を積極的につくりましょう。



- ・小さい子には、どんどん本を読んであげましょう。
- ・本について子どもと話をしましょう。
- ・保護者自身が読書に親しみましょう。
- ・子どもと一緒に図書館や書店に行って読みたい本を探してみましょう。

## 公立図書館・公民館などを利用しましょう



公立図書館や公民館などの公共施設では、読み聞かせ会やエプロンシアターなどの、読書に関する様々な支援活動をしています。各種企画に子どもと一緒に積極的に参加してみましょう。

また、これらの施設は子どもの本についての情報や相談の窓口としても利用できます。

## 「子ども読書活動推進法」という法律ができました

「子ども読書活動推進法」は、平成13年12月に施行された新法で、読書は「人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠かせない」とし、子どもの読書活動の推進を目指しています。4月23日を「子ども読書の日」と定め、学校はもちろんのこと、家庭においても「読書機会の充実と習慣化に積極的な役割を果たす」と定めています。